

第5次地域福祉計画の策定に向けた市民会議 「地域福祉 Project あしやオープンテーブル」

報告書

みなさんと一緒に描いた、芦屋の未来

令和7年（2025年）9月から11月にかけて、
全3回の市民会議「あしやオープンテーブル」を開催しました。

延べ72人もの幅広い年代の皆さんにご参加いただき、
「年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち」の
実現に向けて、対話を重ねました。

この報告書は、皆さんの声を形にしたものです。

令和8年2月

芦屋市

1 開催目的

芦屋市では地域福祉計画の策定時にワークショップによる市民会議を開催し、市民の皆さまの声を大切にして施策を検討してきました。第5次地域福祉計画策定においても市民会議を開催し、市民意見を計画に反映するとともに、地域共生社会の実現に向けて、地域福祉活動の活性化につなげることを目的に実施しました。

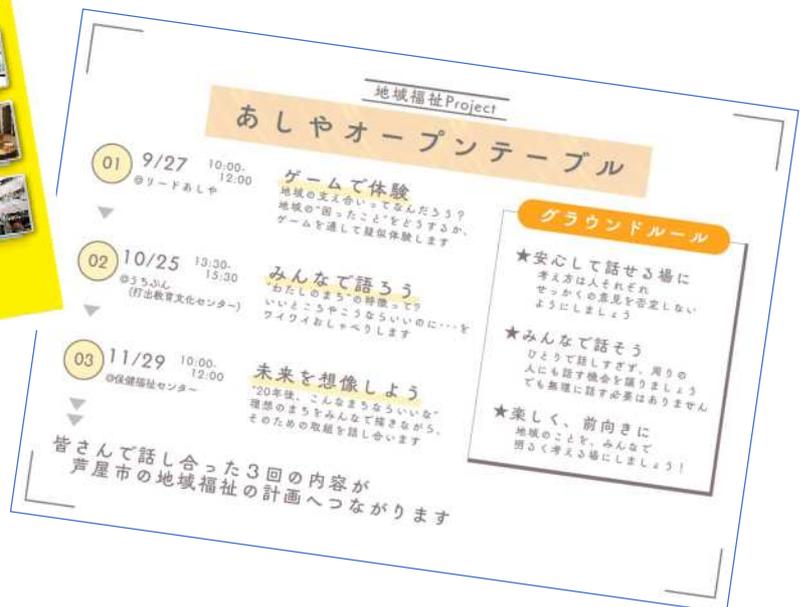
◆ オープンテーブルって？

市民同士が打ち解けた雰囲気集いで、地域の課題を共有しながら、共に考え、意見を交換する場。それが「オープンテーブル」です。

堅苦しくなく、フラットな場で話し合いたいとの思いから、今回の市民会議の名称を「あしやオープンテーブル」としました。

2 参加者の募集

定員 40 人程度の市民公募とし、「広報あしや」（令和 7 年 8 月号）や芦屋市公式ホームページ、SNS 等で募集をかけ、36 人の応募がありました。



3 開催概要

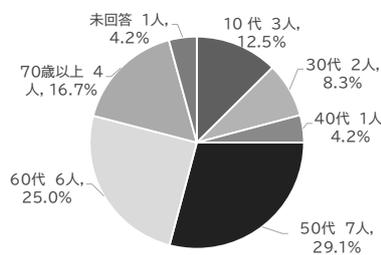
全3回の開催とし、各回5～6グループに分かれて話し合いました。

第1回：ゲームを通じて地域福祉全般の現状や本市の資源等の状況を共有

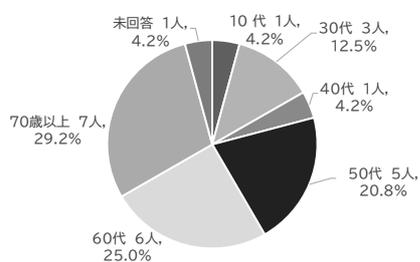
第2回：参加者が改めて芦屋のこを見つめなおし、点数とレーダーチャートを作成

第3回：第2回目の内容をベースに、未来の芦屋像を描きながら対話

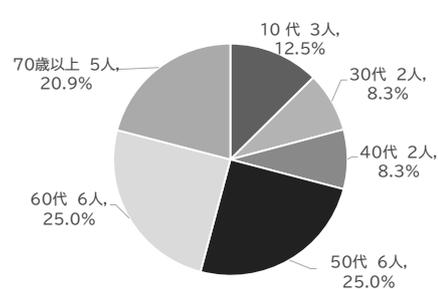
回	開催日時	会場	テーマ	参加者
1	令和7年 9月27日(土) 10:00～12:00	あしや市民活動センター (リードあしや) 1階オープンスペース	<u>ゲームで体験!</u> 地域の支え合いってなんだろう?	24人
2	令和7年 10月25日(土) 13:30～15:30	打出教育文化センター (うちぶん) 2階大会議室	<u>みんなで語ろう!</u> “わたしたちのまち”の特徴って?	24人
3	令和7年 11月29日(土) 10:00～12:00	保健福祉センター 3階多目的ホール	<u>未来の芦屋を想像しよう!</u> ～20年後、こんなまちだったらいいな～	24人



▲第1回



▲第2回



▲第3回

4 第1回 実施内容と意見

地域福祉に関する困りごとや悩みを、地域の社会資源を通してどのように解決できるかを参加者が解決の過程を疑似体験しながら話し合う「福祉SOSゲーム」を実施しました。

◆ 福祉SOSゲームって？

私たちが暮らす地域を舞台にした「お悩み」について、みんなで意見を出し合い、「どうすれば困りごとを解決できるか」をグループで考えるゲームです。

SOSは、「S：社会資源」、「O：お悩み」、「S：相談」の頭文字です

進め方

- 1 カードの相談ごとを読み上げます
- 2 解決するために相談するところや
行ける場所を話し合います
※マップの内容も参考にしてください
- 3 話し合えたらカードを裏返して、確認してみましょう
※裏面はあくまでも一例です。
他にもあるはずなので考えてみましょう
- 4 1～3を繰り返します
(繰り返すタイミングはアナウンスします)
- 5 すべてのカードが終わったら、グループで振り返ります
印象に残ったカードや知らなかった相談先などを話し合います
- 6 最後に全体で共有します

・精道さん家 No. 8

イチロウ 一郎	アキコ 明子	タロウ 太郎
		
世帯主 74歳 無職	妻 72歳 無職	子 50歳 無職

息子が学校を卒業してから、長い間ひきこもり状態で働いていません。私たちも高齢になってきて、細々と年金で生活しているので、私たちがいなくなった後の息子の生活が心配です。

・南宮さん家 No. 10

ヒロシ 宏	ユキコ 由紀子	ハルカ 春香
		
世帯主 35歳 会社員	妻 32歳 専業主婦	子 6歳 小学生

娘に発達障がいがあって、将来のことが不安です。今後のことを相談したいです。

◀ 芦屋市版「福祉SOSゲーム」
で使用した悩みや困りごとを
記載したカード

第1回「あしやオープンテーブル」当日の様子



ゲームを通じて意見を出し合った後、芦屋市の地域福祉に関連する社会資源やサービスで「あったらいいもの」について話し合いました。

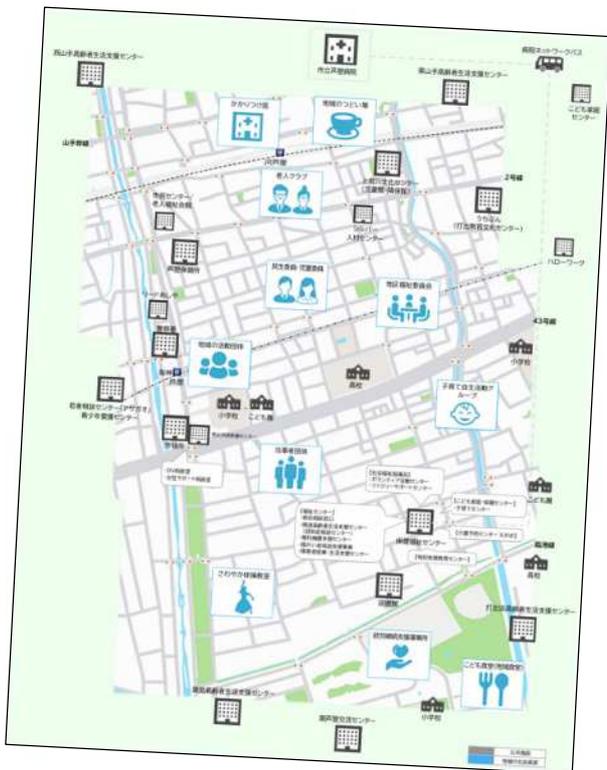
▶ 結果

芦屋に「あったらいいもの」として、主に以下の意見が出されました。

- ・ 困りごとを相談する窓口の分かりやすさと一本化
- ・ 困りごとについて気軽に相談できる仕組み
- ・ 地域での支え合い、見守り、近所づきあい
- ・ 外国人の交流・相談の場
- ・ こども、子育て中の人、障がいのある人への支援

👉 福祉SOSゲームの無料貸出を行うこととしました
(市 Web ページに詳細を掲載し、貸出申請を受け付けています)

👉 第2・3回目のテーマへ



◀ 「福祉 SOS ゲーム」で使用した、芦屋市の社会資源を示したマップ

▶ ゲーム後の感想や意見を参加者各自が付箋に記述した



5 第2・3回 実施内容と意見

● 第2回：芦屋のまちは何点？ 点数を共有してレーダーチャートづくり

〈点付け・点数共有〉

5グループ（テーブル）に分かれた参加者に対して、「『年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち』として、100点満点中何点ですか？」と問いかけ、直感的に点数を記入、グループ内で共有しました。



▲点数を記入するフリップ

グループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ
平均点	63.3点	61.3点	66.6点	58.0点	61.6点

▲各グループの平均点

※ 出席者の人数調整のため、Aグループに参加予定の方に別グループに移動いただき、Aグループは欠番としました。

〈理由の書き出し〉

その点数にした理由を参加者個人で付箋（加点ポイントは青い付箋、減点ポイントは赤い付箋）に書き出しました。

第2回「あしやオープンテーブル」当日の様子



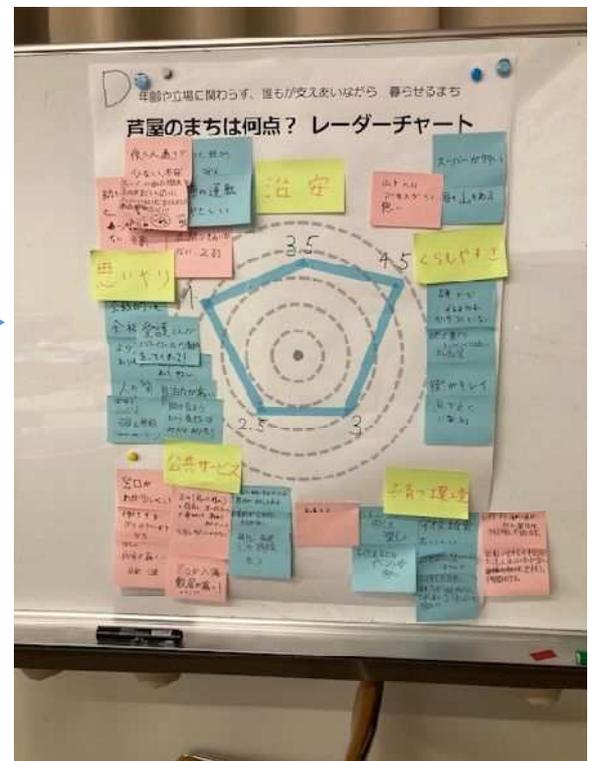
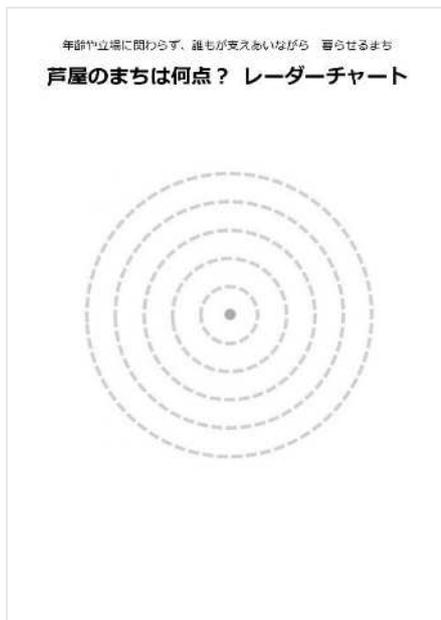
〈理由の共有〉

書き出した付箋を、その意見内容を発表しながら各テーブルに設置した模造紙に貼り出し、グループ内で共有しました。話し合いの途中で新たに生まれた意見は、都度追加の付箋に書き出し、模造紙に加え、意見が出尽くしたところでテーマごとにグルーピングを行いました。途中、他のグループの内容を確認する時間を設け、意見の充実を図りました。



〈レーダーチャートの作成〉

付箋（加点ポイント、減点ポイント）を整理し、テーマごとにグルーピングした模造紙を見ながら、各テーマの現状の点数を分析するレーダーチャートを作成しました。



※各グループの作成したレーダーチャートは15ページ以降参照

● 第3回：理想のまち（満点のまち）に向けた具体的なアクション

第2回目のレーダーチャートから、地域福祉に関連するものについて

- ① 課題解決のために、市民・地域のみんで協力してできることって？
- ② そのためにはどんなチームや仕組みがあったらいい？
- ③ それを進めるために、市からどんな応援や後押しがあると嬉しい？

を話し合いました。



※各グループの意見や発表内容は 25 ページ以降参照

第3回「あしやオープンテーブル」当日の様子



最後には、参加者全員に「年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと」について、今後の意気込みや芦屋市への想いを込めて一言ずつ発表してもらいました。

▶ 第2・3回の結果

第2回・第3回で話し合われた主なテーマごとの現状と課題、課題解決のための取組についての意見は以下の通りです。

※本報告書では、各グループにおいて出された主要なご意見を、地域福祉に関わる主なテーマごとに抜粋して掲載しています。

●人とのつながり、コミュニティ	
<p>現状と課題 (第2回)</p> <p>○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○長く暮らしている方が多く、移ってきた人にも優しい。 ○住民の気持ちに余裕があって、人に優しい。 ○住民相互に干渉しすぎず、もめごとが少ない。 ○自治会活動が盛んで、高齢者とこどもの交流が活発な地域もある。 ○マンション内の住民同士のコミュニティは高い。 ○居場所、通い場、つどい場が多い。 ○地域の祭り、イベントが盛んで集まる機会が多い。 ○商工会や商店会など商業関連のつながりの他、同じ目的を持つ横のつながりはある。 ○芦屋村出身の人や商店では三世代の店が多く、近所同士の長いつながりがある地域がある。 ○経済的余裕があり自立している人が多く、援助を必要としない人が多い。 ○転勤して来た住民にも、長く芦屋市に住み続けたいと思う人も多い。 ▲地域のつながりや近所づきあいに地域差がある。 ▲市の南北のつながりが薄い。 ▲つながりの意識が低くなった気がする。 ▲自治会が高齢化している。 ▲マンションの住民とも地域の横のつながりが必要。 ▲あいさつがない。 ▲気軽に話しかけにくい雰囲気がある。 ▲支援を必要としている人が見えづらく、表に出にくい。 ▲助けを求めることが難しいように感じる。 ▲支え合う仕組みがないように感じる。 ▲孤独を感じている人へのサポートが不十分。
<p>課題解決のための取組 (第3回)</p>	<p>①市民・地域がみんなで協力してできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の基本である、あいさつを大切する。 ・困りごとを共有して共通の目的を持ち、つながりを作る。 ・イベント参加、ごみ拾い等、地域の活動を楽しそうに行う。他の人も影響されて参加するのではないか。 ・マンションごとの声かけを考える。 ・自治会ごとの違いを踏まえた交流を行う。 ・転入者への声かけをする。 ・こども食堂で、独居の人にも声をかける。

課題解決のための取組 (第3回)	②必要なチームや仕組み
	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする、あいさつを返す取組を考える。 ・井戸端会議ができる場をつくる。 ・自治会広報は自治会員のみに配布が限定される。地域のことを広く周知できる仕組みが必要。 ・芦屋市を知るために、芦屋を巡るゲームを開発したり、市内を歩くイベント等を開催する。 ・自治会相互の交流のあり方を考える。 ・自治会から住民への声かけの仕組みづくりをする。 ・マンションごと自治会に入っていない場合がある。共通の団体があるとよい。 ・老人会のない地区の高齢者を他地区で引き受ける仕組み。
	③市からの応援や後押し
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民向けのあいさつ運動。 ・「広報あしや」に自治会ごとの活動をのせて、市民で課題を共有する。 ・転入者に対してコミュニティを知る場を市役所に整備する。 ・マンションの多い自治会のコミュニティについて、問題を解決する仕組みが必要。 ・老人会のない地区の高齢者を引き受けている地区に支援。 ・民生委員も巻き込んだ活動を行う。
●多世代交流	
現状と課題 (第2回)	<p>○市長の発信力が素晴らしく、市長は多世代交流のキーマン。</p> <p>▲多世代が交流する場がない。</p> <p>▲地域の人たちと交流する機会があまりない。</p> <p>▲交流するだけでなく、“かき混ぜる人”が必要。</p> <p>▲同世代でも就学しているこどもがいないと交流がない。</p>
○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見	
課題解決のための取組 (第3回)	①市民・地域がみんなで協力してできること
	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代が地域で楽しめる、地域とつながる明確なシステムをもつ。 ・若い人を無理に引き込まず、興味のある人を取り込む。
	②必要なチームや仕組み
	<ul style="list-style-type: none"> ・場を作っても、場をかき混ぜる人とかき混ぜる仕組みがないと交流が生まれない。かき混ぜる仕組みにはイベントが考えられる。 ・お祭り、地蔵盆、ハロウィンなど、大人もこどもも楽しめる交流の場をつくる。 ・新型コロナ禍でなくなっているイベントを復活させる。
	③市からの応援や後押し
	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代参加のイベントを行う。 ・学校を活かしたイベント行う。 ・こどもたちの活動をサポートする人たちに向けた助成金。

●若者・現役世代の参加	
現状と課題 (第2回) ○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見	○転入や移転してきた人が地域とつながろうとする意識は高いと感じる。 ▲働いている人等が地域活動に参加しやすい仕組みがない。 ▲仕事をしていると、地域のことがわからない。 ▲市民が増えないと福祉サービス（公助）が向上しない。市民が増えるためには子育てサービスの充実が必要。 ▲現役世代の市民を増やすには、現役世代には住みにくい街になっているのではないかとこのところから考える必要がある。
課題解決のための取組 (第3回)	①市民・地域がみんなで協力してできること ・こどもが人と地域の人をつないでくれるので、こどもも大人も参加するイベントをもっと行う。 ・イベントを行い、若い人の興味をひく。 ・自治会で母親世代が活躍できるようにする。 ・自治会のイベントは他地区からの参加もできる等、オープンに行う。
	②必要なチームや仕組み ・若い人が企画することを年代が上の方が手伝う仕組みにする。 ・自治会が若返り、現役世代が関われる仕組みが必要。自治会や地域の活動に現役世代が参加できる時間や方法を考える。 ・こどもが企画するイベントを行い10年後につなげる。
	③市からの応援や後押し ・地域のイベントに市長に参加してもらい、集客を高める。 ・「広報あしや」に年代別のページを作るなど、若い人にももっと手に取ってもらいやすくする。
●多様な人との共生	
現状と課題 (第2回) ○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見	○子ども会などのイベントが多い。 ○困った時に支えてくれる公共サービスの窓口がある。 ○福祉サービスが充実している。 ▲外国籍の方との支え合いを考える必要がある。 ▲認知症の方と家族への支援・対応を考える必要がある。 ▲性的マイノリティの方が孤立しがち。 ▲独居の人、孤独を感じている人がいる。 ▲弱者の声を拾えていない。 ▲公の相談窓口に行きにくい。
課題解決のための取組 (第3回)	①市民・地域がみんなで協力してできること ・マイノリティの方が何に困っているかについて知る。 ・マイノリティの方が相談しやすい環境を整える。 ・地域で子育てをサポートする。 ・子育てを終えた高齢者等が子育てを手伝う。 ・市民が得意なことをこどもに教えたり、講演する。 ・大学生がインターンのようにしてこどもを見る。 ・こども食堂。

課題解決のための取組 (第3回)	②必要なチームや仕組み
	<ul style="list-style-type: none"> ・何に困っているのか、問題を表面化する仕組み。 ・相談に行かない、行けない人が行きやすくする仕組み。 ・AIを活用して、相談しにくいというハードルを下げる。 ・アウトリーチ。生活圏域で課題を拾い上げる。 ・外国人が地域のコミュニティに入っていやすい仕組み。地域で外国人とのコミュニティを作り、声を拾いあげる。 ・市民が得意なことを活かして子育てをサポートできる仕組み。
	③市からの応援や後押し
●防災・治安	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル目安箱を作る。 ・専門スタッフを充実させる。 ・相談窓口を周知する。 ・ニーズや課題を投げかけ合う市民参加のプラットフォームを作る。 ・講師を市民にしたこども向けの様々なテーマの教室を実施する。 ・こども食堂をもっと広報する。 ・こどもがいつでも相談できる場、サポートルームの回数を増やし、内容を充実させる。 ・子育て環境の充実に地域の人や高齢者が学校に参加できるように、学校を地域に向けてオープンにする。 ・ボランティアに頼るのではなく、報酬などの対価のある仕組み。
	○自主防災組織はある。
	○防災に関する取組は強く、防災計画を進めている地域もある。
現状と課題 (第2回) ○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見	○車の運転が優しい。
	○青少年愛護活動の方がパトロールや清掃をしてくれている。
課題解決のための取組 (第3回)	▲防災について、共助の仕組みの必要性を伝えることが必要。
	▲防災の取組に地域差がある。
	▲夜は人通りが少なく、不安に感じる。
	▲駅近くで路上駐車が多く、横断歩道で止まらない。
	▲歩道を自転車がスピードを出して走っていることがある。
	①市民・地域がみんなで協力してできること
	・消防団を活用して地域での防災訓練等をもっと行う。
②必要なチームや仕組み	
・自転車の規制を行う先進的なアイデアと取組。	
③市からの応援や後押し	
・詐欺・防犯対策の教室の周知をもっと行う。	
・自転車の罰則規定が厳しくなったので、周知が必要。	

●情報発信・情報伝達	
<p>現状と課題 (第2回)</p> <p>○⇒加点ポイントの意見 ▲⇒減点ポイントの意見</p>	<p>○広報がよく編集されていて、情報が充実している。</p> <p>▲困りごとを相談できる場所や人がわからない。</p> <p>▲公共サービスについて、どこに何を聞きに行くのかがわからない。</p> <p>▲さまざまな形で情報発信されていても伝わり切れていないのではないか。SNSを活用しきれていないのではないか。</p> <p>▲つどい場、居場所の存在が伝わっていない。</p> <p>▲施策の内容が伝わっていない。何度説明を聞いてもわかりづらい。</p> <p>▲デジタル活用が不十分なため、高齢者間の情報伝達が難しい。</p>
<p>課題解決のための取組 (第3回)</p>	<p>①市民・地域がみんなで協力してできること</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出かけ、参加し、友達を作る。 ・人から人への声かけ、口コミで情報交換する。 ・コミュニティの中での情報交換を考える。 ・LINE等、ネットを使って自治会の情報を流す。
	<p>②必要なチームや仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強制ではなく、つながりたい時につながる仕組み。 ・AIエージェントなど、多様な情報を多様なツールで拾える仕組み。 ・口コミで情報交換ができるつどい場が重要。 ・ICTやAIを使ってプッシュ型の情報提供を行う。 ・地域で大人からこどもへ情報提供できるコミュニティスクール。 ・独居や高齢者等の支援に個人情報の提供を考えてほしい。 ・多様なチャンネルで情報を発信する。
	<p>③市からの応援や後押し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTやAIを使ったプッシュ型の情報提供の仕組みづくり。 ・防災関連や民生委員のことについて、行政からもっと情報発信する。

6 おわりに

📍 オープンテーブルを通して

全3回のオープンテーブルで、地域には**芦屋愛が強い人も多い**一方で、地域の**つながりや近所づきあいには地域差や個人差がある**ことが共有されました。あいさつが少ない、気軽に声をかけにくいといった雰囲気、助けを求める時の難しさにつながり、困りごとを抱える人ほど見えにくくなっているという意見もみられました。

また、**多世代が自然に交流できる場**が少なく、場を用意するだけでなく**「人をつなぐ(かき混ぜる)仕組みや人」**が必要だという声も挙がっていました。

さらに、多様な立場の人の孤立や、相談窓口の分かりにくさ、その情報が届きにくいこと、地域における防災・防犯対策も重要な課題として示されました。

「地域福祉」という言葉がもつ「地域で暮らす人のしあわせ」という概念は、言葉にすると単純で当たり前のことでも、みんなで考えれば考えるほど、その実現のためには**多様で複雑な課題が存在している**ことが見えてきました。

📌 地域福祉計画の策定に向けて

3回にわたるグループワークで対話を重ね、良いところと課題、それに対するアイデアをたくさんいただきました。

人とのつながりに関すること、また、仕組みづくりや活動への参加の支援、情報の発信といった内容など、「満点のまち」に到達するためには解決することが多くあります。ご参加いただいた皆さまで創り上げていただいた結果を踏まえ、地域福祉を推進する計画を考えていきます。

地域福祉で目指す「年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち」は、行政だけで実現できるものではありません。引き続き、市民の皆さまのご協力をいただきますようお願いいたします。



◀第3回の最後に、芦屋市の「地域福祉」についてともに考えてきた皆さんと記念撮影をしました

ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました
これからも一緒に芦屋の未来を創っていきましょう

第2回：芦屋のまちは何点？点数を共有してレーダーチャートづくり

第3回：理想のまち（満点のまち）に向けた具体的なアクション

各グループ作成・報告集

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち

Bグループ 芦屋のまちは何点？

気軽に子どもを遊ばせたり、
ママパパのコミュニティを
作れる場所がない

居場所、通い場、
つどい場が多い

コミュニティが多い

地域の祭りや
イベントが盛ん
(集まる機会が多い)

居場所の参加の
ハードルが高い

自宅の周辺に飲食店や
スーパーなどが少ない

長く暮らしている方が多く、
越して来た人にも優しい 孤独を感じて
いる人がいる

独居の人が多い

干渉しすぎない
もめごとが少ない

高齢者には
移動が不便

自治会が
盛ん

高齢の方と
子どもの交流

つどい場・居場所

自治会高齡化

ひきこもり
不登校

地域のつながり

シングルマザー・ファザーの
苦労があまり知られていない

健康に関して自助力を
身に付ける資源がない

情報

情報発信はしっかり
されている

情報伝達が
うまくいっていない

相談できる場所や人が
わからないことがある

50点

50点

50点

50点

30点

防災

自主防災ある

自主防災は形だけ？

95点

芦屋愛

わたしたちのまち、
話しが通りやすい

公助は多い？
(知られていない...)

公的支援が身近に感じる

芦屋愛の強い人が多い

こじんまりした市なので、
顔の見える関係づくりがしやすい

マイノリティへの対応

外国籍の方とどのように支え合うのか？
芦屋での相談窓口すら不明

性的マイノリティの
方が孤立しやすい

チームオレンジは
どうなっている？

認知症の方と家族を地域で
どのように支えていくのか？

青⇒加点ポイント
赤⇒減点ポイント

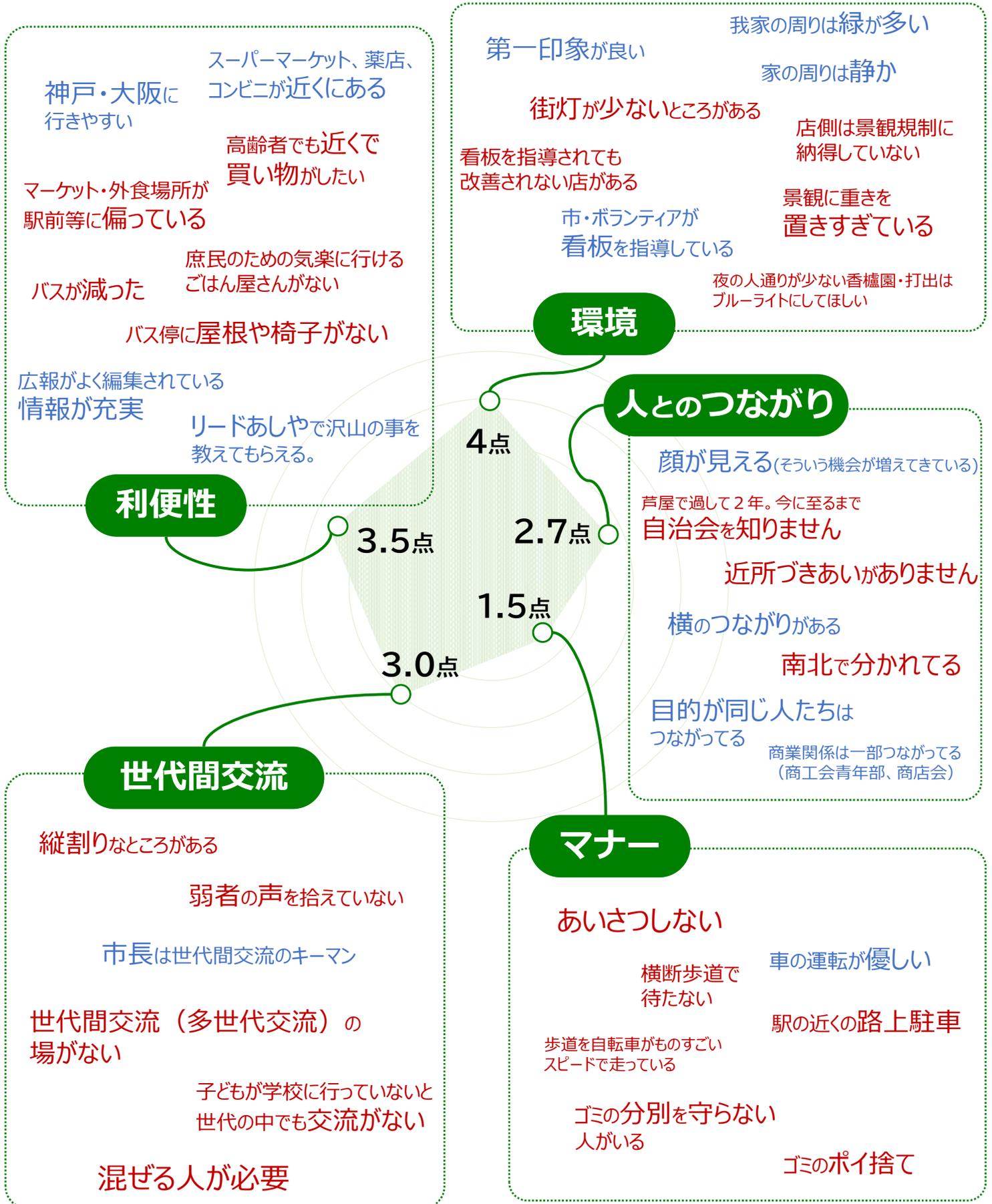
Bグループ

■レーダーチャートを100点にするために（第2回アンケートより）

項目	記述内容
地域のつながり 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立を感じている人がいなくなる。 ・人との付き合いがないと感じる人のアンケートで「常にある」が0%になった時。 ・自助・互助の理解。他項目が達成できること。 ・個別対応や小さなつながりを生む取り組みがあるといい。 ・市民が心身ともに余裕をもっており、周りに目を向けて思いやれる状態。
マイノリティへの 対応 30点	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方や外国人の方との共生社会への作り方はこれからの課題。 ・20年後のビジョンが必要！ (特に認知症の方へのチームオレンジが気になる)。 ・全ての人のマイノリティへの理解。独りでも孤独を感じないこと。 ・どんな国籍、性別、立場の方でも安心して生活ができる状態。 ・行政がマイノリティと呼ばれるような人達にも目を向けて対応する必要がある。
防災 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・東南海地震のことはこれからの課題。 ・災害時に自分が何をすればいいのか、どこに情報を取りに行けばいいのか全ての人が共通で知っている。 ・災害時の対策が整理され、様々なチャンネルでの発信を通じて市民に周知されている状態。
情報 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口を知らない人がいなくなること。 ・情報を行き届かせること。SNSやWebではなく、どこに情報をとりに行けばいいのか全ての人が知ることができる。 ・必要な情報を必要な人に届けられている状態。
つどい・居場所 (コミュニティ) 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティがひと目でわかるような、もしくは検索すればわかる一覧が必要。 ・オープンな居場所ができるといい（ハードルゼロ）。 ・行政・民間などの取組を通じて、豊かな人間関係を築けている状態。 ・他の項目を満たした状態。
芦屋愛 95点	<ul style="list-style-type: none"> ・他の項目達成できれば。 ・あと5点はみんなが住みやすい、困っている人がいなくなるまちなること。

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち

Cグループ 芦屋のまちは何点？



青⇒加点ポイント
赤⇒減点ポイント

〔グループ〕

■レーダーチャートを100点にするために（第2回アンケートより）

項目	記述内容
環境 4点	<ul style="list-style-type: none"> ・環境は整っているが、景観を重視しすぎている。バランスを取っていると良い。 (道路はオシャレではなく、歩きやすくフラットに/暗いところの道には街灯を増やすなど) ・移住したいと思える魅力が山と川と海のみ。芦屋ならではの豊かな暮らしが出来るという特色を出す。 ・ゴミが道路に落ちている事はないが、収集場所をきれいに保つルールが欲しい。ゴミ分別を正しく行う。 ・住環境はかなり整っている。立場により感じ方がちがうので説明が必要。
人とのつながり 2.7点	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から頑張つてつなるとなるとハードルが高い。ハードルが低くなる工夫が必要。 ・目的のあるつながりはできやすいが、近所づきあいをどうするか？それができればベスト。 ・"あいさつ"位はしたい。そこから何かが始まれば良い。
世代間交流 (人との交流) 3点	<ul style="list-style-type: none"> ・交流内容を公会堂の黒板に貼って知らせてほしい。 ・市長の力が大きく、世代間交流ができてるのが素晴らしい。同じことをできる人、一緒に混ぜる人が育ってほしい。 ・市長のように人材育成に力を入れることや、かき混ぜる人の育成もあると良い。
マナー 1.5点	<ul style="list-style-type: none"> ・ダメな事を多くより、できる環境を作ることで、マナーを守る人を増やせば良いと思う(送り迎えゾーンを作るetc)。 ・マナーはいいと思うが、“あいさつ”ぐらいはしたい。 ・「ちょっとおせっかい」がウザがられない街になってほしい。 ・大人みんなで学校教育を巻き込んで頑張る。
利便性 3.5点	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が困っていることに耳を傾けることができるシステムがほしい。 ・バス停の環境を整える(ベンチ、屋根)。 ・お買物送迎バスを運行して欲しい。 ・電車の踏切、バス停etcについて民間とのつながりを大切に実現を。 ・お年寄りやベビーカーの方にやさしいまちに。 ・オシャレで入りにくい店を、誰でも入れるように。

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち

Dグループ 芦屋のまちは何点？

困ったときに支えてくれる窓口が
きちんとある

役場の説明が難しい。補助・支援

窓口がわかりにくい

窓口が入り難い。敷居が高い！

外国人サポートが少ない

図書館では全体的に点字が多い

福祉・病院などの公共施設あり

働き手が周りの市に行きがち

公共サービス

子育て環境

だんじりが多くて楽しい

子ども会などの
イベントが多い

静かすぎる細い道が多く、
登下校時に不安

岩園小学校区は山手中学への
登校に1時間かかる

下校時に、すれちがう近所の人と
よくあいさつをしていて明るい？

教員不足 学校給食が
おいしい

障がい者の学校施設が
とてもキレイだった

思いやり

助け合おうという
気持ちはみんなありそう

助け合いの面でちょっとドライ

自治力が高い

つながりがない

近所づきあいがいい

気持ちに余裕があって、優しい

余裕がありそう 金銭的にも
余裕がある

街中のみんな
元気＆明朗 人の質が高い

愛護さんがパトロールや
清掃してくれる！

スーパー商品棚、上の方までいっぱい
入っているので車イスの人が取りにくい！

治安

比較的安全

夜に人通りが少ない

車の運転やさしい

くらしやすさ

街がキレイ

静かで住みやすい、ザワザワしていない

海も山もある

自然が豊かで窮屈ではない環境！

山手へのアクセスが少し悪い

スーパーが多い

青⇒加点ポイント
赤⇒減点ポイント

Dグループ

■レーダーチャートを100点にするために（第2回アンケートより）

項目	記述内容
子育て環境 3点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館などの仕事をしている大人が、子どもを預けられる施設があると良い。 ・マンパワーの確保。教員不足が解消されてほしい （トラブルに目が届きにくい、サポート必要な子に手が回らない） ・通学路(特に中学)の安全性と利便性の向上。徒歩30分以上はキツイ。 ・安心、安全。先生に相談できる。 不安になったら相談できるところがある。 ・今後の人材育成に必要なので、集中して取り組みたい。
くらしやすさ 4.5点	<ul style="list-style-type: none"> ・ときどきゴミがたくさん落ちていることが無くなる。 ・スーパーの数の偏りが減り、バス路線の充実度が上がる。 ・公共交通の充実。交通の便の良さ。山手へのアクセス向上。 ・通学路の安全性の確保。現在試行中の乗合サービスに期待。 ・環境整備の実施継続が必須。
思いやり 4点	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい環境をつくっていること。会話が早いこと。 ・子どもへのあいさつはあるが、大人が互いにあいさつしない。 日々のあいさつ。 ・知り合いが多くなること。 ・人の役に立ちたいという思いを発揮しやすい環境づくり。 ・人的な資質に関わるもの、ボランティアの育成も大切。
治安 3.5点	<ul style="list-style-type: none"> ・道に街灯の少ないところがあるので、もう少し増やすこと。 夜道のどこを一人で歩いても安全に。 ・自転車の走行マナーがよく、路駐が少なく、街灯が増える。 交番勤務の人を増やし、防犯カメラを増設。 ・だれもが安心して暮らせるマナーと相互で助け合える環境。 ・街の総合的な評価になるものなので、全ての項目レベルupが必要。
公共サービス 2.5点	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の説明が分かりやすくなること。 ・サービスが周知されていないので、積極的に発信。 ・相談窓口は2分以内にわかる。 ・内容をわかりやすく、ワンストップで対応。 ・市の南側に児童館がほしい。 ・困った時の対応がアプリやAIを使ってすぐに回答を得られるようになる。 デジタル難民の方(高齢者)のための説明会や教室も合わせて行う。 ・福祉の成果が集約されるので実施にかかっている。

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち Eグループ 芦屋のまちは何点？

防災に関する取組が強い
 防災計画を進めている地域もある。
 共助の仕組みの必要性を伝えることが必要

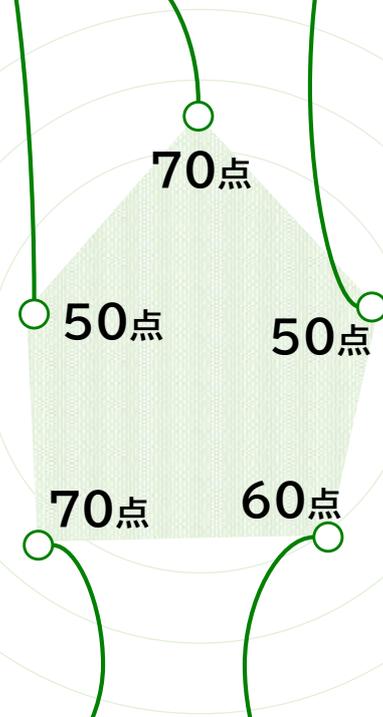
防災

地域のつながり

参加しやすいしくみ

地域へのこだわりがある
 新しく来た人が
 つながろうとする意識は高い
 つながりの意識が低くなった
 住まいの形態によるちがいが
 踏まえられていない
 土日のみ地域活動のお手伝い
 (ボランティア・防災)
 平日は難しい
 (働いている人が
 参加しやすい仕組みがない)
 働いている者には負担
 (掃除当番等)
 作業負担の多い人へ対価を

自治会がしっかりしている
 年代間の差
 マンションの住人同士の
 コミュニティが高い
 地域差
 マンションの増加
 マンションは
 地域にとけこまない
 地域内コミュニティ
 昔ながらの知り合いが少ない
 高齢者間の情報伝達が難しい
 (ITの活用がまだまだ)



解決のしくみ

まちづくり

行政と市民の協力
 地域で解決するための補助金
 市役所職員の対応が優しい
 行政相談 (問題を解決する仕組み)
 不明瞭な点もある (交通ルール等)
 教育のことばかりに力が入りすぎている
 ゴミステーションがない

まちの人たちの努力
 (芦屋川がいつもきれい)
 未解決の場所もある
 まちづくりの意識が高い
 公の強制力、公・民協力
 大変と感じる人もいる

青⇒加点ポイント
 赤⇒減点ポイント

Eグループ

■レーダーチャートを100点にするために（第2回アンケートより）

項目	記述内容
防災 70点	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体でしっかり防災計画を練って、内容を発表し合う場を作る必要がある。 ・地域で繰り返し訓練する。 ・個人的な備えを進める。 ・今後の発災時のための準備等々、無限的な問題がある。
地域のつながり 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりの大切さを感じられる良い機会があれば良い。 ・戸建て住宅のみならず、マンションごとのコミュニティを深める助成が必要。 ＜例＞クリスマス会、ガーデニング活動などへの資金の助成。 ・地域差、年齢差など、いろいろなことを踏まえて、すべてがスムーズになるとよい。 ・マンションが増加していく状況下で、更に解決が困難。 ・多様性の時代で各世代の意志疎通は困難か？
まちづくり 60点	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の意識が大切。 ・行政主導ではなく民間も自由に参加出来るように取り計らってほしい。 ・地域差解消は難しい。永遠の課題か。 ・阪神電車の高架とか、さらに都市計画を進める。
参加しやすいしくみ 50点	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が届きやすいしくみ。ITの活用等。
解決のしくみ 70点	<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女に伝達出来る方法が確立していると良い。

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまち

Fグループ 芦屋のまちは何点？

福祉サービスが充実している

支え合う仕組みがないように感じる

芦屋市の福祉サービスは、お役所としての窓口はOKだが、その先が問題。

公助(くらしやすさ)

公的サービスについて、どこに何をしに行くのかさえわからない

情報(市⇒市民、市民⇔市民)

市民が増えないとサービスがupしないので、子育てサービスの充実が必要

現役世代の活力

交流

気軽に話しかける人が少ない、ドライな感じ

年齢の違う人たちと交流する機会があまりない

地域の人たちと交流する機会があまりない

子どもの数が少ない

互助

経済的に自立している人が多い

助けを必要としないまち

支え合える必要がないまち
(援助を必要としない人が多い)

経済的な差が大きい

実助的な助け合いまで発展するのは未知数

親切な人達がいらっやる

ボランティアが多い

話をすれば分かる人が多い

転勤族が多い
転勤族でも、住み続けたいと思う人も多い

加点か減点か、どちらとも言えなかった
(ハッキリしない)

ご近所づきあい

助けを求めることが難しく感じる

助けを必要としている人が見えづらい

うまく回っているように見えてしまう

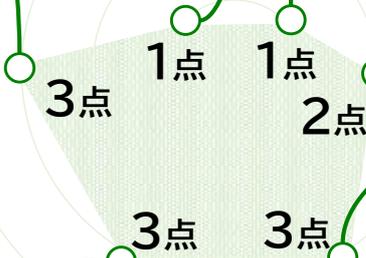
障がい者、当事者家族、高齢者、子育て世代についての理解も未知数

本当に支えなければならぬ人が表に出にくい

学生さんのニーズが公に見えづらい 商店の中には3世代の店も多い

商店関係者の多くが外部の人

あしや村出身の地元の人も多い



青⇒加点ポイント
赤⇒減点ポイント

Fグループ

■レーダーチャートを100点にするために（第2回アンケートより）

項目	記述内容
ご近所づきあい 3点	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。顔見知りになる。 ・よそから流入してきた人たちや現役世代の人たちも気軽に参加できる場がある。 ・住民や市民が交流できるイベントや行事を増やす。 ・独居世帯への気遣い。
交流 3点	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりのもてる場(イベント)に参加する。 ・市民同士、市民と市とで交流できる場があり、気軽に相談できる。 ・市役所の側に“うちぶん”のような施設があるといい？ ・行きたくなる市役所。 ・地域のコミュニティ作りを自治会だけに頼るのではなく、様々な方策を行政とともに考える場所作り。 ・市職員が週に1時間でも市民の声を拾うような関わり。
公助 (サービス・ 暮らしやすさ) 1点	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌(掲示板など)を見る。 ・福祉サービスの周知、利用しやすさ、市民のニーズの収集。 ・現役世代の人口を増やし税収を上げ充実させる。 ・行政と市民の関係が相互乗り入れ的になると良い。 ・市民の要求/相談へのコンシェルジュ的役割が必要。 (1回目のSOSゲームのような本を窓口で報せる) ・福祉がどういうものか啓蒙が必要。 ・芦屋市を一つのコミュニティとしてとらえづらい面がある。
情報 1点	<ul style="list-style-type: none"> ・若い年代にも伝わるようにSNS等の活用。ITを活用しもっと発信。HPを充実(更新を増やす)。 ・市サービスとしてお困りごとのマッチングアプリとかがあるとよい。 ・町ごとに情報共有できるシステムの構築。
互助 3点	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、市民同士でつながるしくみ。 ・民生委員制度に変わる新しいつなぎ役も必要。 ・地域内でのイベントと若い人が集まる場づくり。 ・市が互助グループの声をもっと拾って、サービス拡充。
現役世代の活力 2点	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代に対するサービスの充実。子育て世代への援助。若い人が定着できる街へ。 ・介護する側へのサービスやサポートがあり、仕事とバランスがとれる。 ・現役も街づくりに参加しやすい自治運営。 ・芦屋の魅力の発信。 ・芦屋に法人を呼び込む施策。

【Bグループ】

項目	点数	色	付箋の記載内容
マイノリティへの対応 ↓ 芦屋スマイルベース	100点満点中 50点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の方を日本人のような扱いをする ・マイノリティの方の声とは？ ・マイノリティの方の情報を（想い）得る ・国際文化住宅都市!!なんだから ・公の相談窓口に行く人がいない（行かない） ・公の相談窓口に行きにくい。行けない人をどうするか ・相談する環境がない。子どもたちからそのようなことに慣れていない。ハードルになる ・マイノリティ、困っていることを知る努力をする。芦屋は親切な人が多いのだから… ・何に困っているかわかれば助けてくれる人は多い
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を表面化するしくみ ・相談に行かない、行けない人が行きやすくなる仕組み ・AIを活用して相談ハードルを下げる ・何に困っているかわかる仕組み（発信できない人もいる） ・外国人と地域コミュニティに入っていやすいしくみ ・共生社会づくりを意識して芦屋のまちをみんなで良くするしくみ ・アウトリーチ。生活圏域で課題を拾い上げる（スーパー、モンラメール ex. 芦文、健診）
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・相談のハードルを下げる周知 ・専門的な相談スタッフ（安心感） ・ニーズ・課題を投げかけあうプラットフォーム（市民参画プラットフォーム） ・デジタル目安箱 ・住民の生活の場に入っていける仕組み作り
情報	100点満点中 50点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな手段が必要（情報は出している） ・地域に出かける、参加する、友達を作る ・一人一人が課題解決できるしくみ ・口コミで情報交換 ・口コミ、人から人への声掛け ・つながりたい人に地域差や個人差がある。むりやりつなげる必要はない（ゆるくつながる） ・意外と相談窓口も知られてない
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・強制ではなくつながりたい時につながれる（ゆるくつながる） ・分散型自立組織的なプラットフォーム ・プッシュ型のサービス、情報提供（ICT・AI） ・誰が何に困っているか情報を得る ・いろいろな手段があること。（ニーズに応じて）高齢・障がい・外国人 ・AIエージェント ・1日5人とおしゃべり。週に2回は外出。友達10人！！ ・情報交換のできるつどい場も重要。（口コミ大事！！） ・コミュニティスクール。青中応援隊。地域の大人と関わる際に情報提供 ・ゆるくつながる♡つながりたい時につなげるホットライン
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に対して、活動（貢献）した人に対してトークンなどのインセンティブを支払う仕組み ・プッシュ型の仕組み（ICT・AI） ・誰が何に困っているかを拾い上げる

青＝課題や困りごとを解決するために、市民・地域がみんなで協力してできることって？

黄＝そのためにはどんなチームや仕組みがあったらできるか？

桃＝それを応援するために、市にサポートしてほしいことは？

グループ発表時の発言

【マイノリティへの対応】

- ・そもそも「マイノリティへの対応」という言葉自体がどうなんだ、というところから考えた。「対応している」というのは人がしてあげているというニュアンスになってしまい、共生社会の考え方ではないのではないか。
- ・芦屋には「スマイルベース」というキャッチフレーズがあるが、それをもとに一緒に楽しく、笑顔で暮らしていけるという仕組みをどう作るかについての議論になった。
- ・様々なマイノリティの中でも外国籍の方についての議論が中心となった。芦屋は国際文化住宅都市なので力を入れていきたい。

- ・今日ここに出ている課題は芦屋以外の市、例えば隣の市等でも話題になっている。その中で芦屋としてはどういう取り組み、工夫ができるかというところも考えた。

- ・外国人がいろいろな相談窓口に行きたくない、行かないという問題について。彼らが何に困っているのかが、我々にもよくわかってない。外国人の方が声を出しやすいところ、声を拾い上げやすい仕組みが必要。具体的に最新のデジタルやAI使用など。相談窓口を周知する。地域でコミュニティを作っていくことでも外国人の方の声を拾い上げられるのではないか。
- ・行政は専門スタッフや相談スタッフの窓口のほか、デジタル目安箱など、ニーズを拾い上げるプラットフォーム等の導入を検討してほしい。

【情報】

- ・多様なチャンネルで情報を発信する。プッシュ型のもので自分で取り入れるもの。
- ・地域の中でも情報の交換がある。会話の場と普通で誰かから聞くなど、コミュニティの中での情報交換もある。
- ・多様な情報を多様なツールで拾える仕組みが必要。AIエージェントなど。

- ・それほど人とつながりたくないという人の意見はしっかり尊重して、その方はその人なりにゆるくつながれる仕組みであるべき。

- ・デジタルを活用しつつ、誰が何についての情報が取れていなくて、どのように情報を出しているのかという意識や要望をしっかり拾っていく必要がある。

【Cグループ】

項目	点数	色	付箋の記載内容
①人とのつながり ②世代間交流 ※2項目選択されているが、付箋の意見はどちらにも共有される	5点満点中 ① 2.7点 ② 3点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ。地域差+個人差。 ・田舎と都会であいさつ文化が違う。 ・都会では近所の人と顔を合わせる機会が少ない。 ・学校の先生が毎朝挨拶している。毎日の積み重ね。 ・マンションの住民一致団結。 ・共通の敵がいるとみんなで戦う精神が芽生える。 ・防犯対策。顔見知りの関係大事。 ・困りごとがないと人はつながらない。一致団結するきっかけは困り事、事件、災害。 ・挨拶を返してくれなかったら”悲しかった”という体験。 ・小さい子どもからあいさつをしてくれる⇒さすが芦屋。 ・仲良くなりたいたいという想い+顔を合わせる機会が多い。 ・マンション特有の課題。 ・こどもの目線。”ちょっとずつ交流していきたい”。 ・あいさつはゴールではない。手段！ ・自助の部分で解決←戸建ての暮らし。 ・あいさつは自然発生。 ・最近少し窮屈な世の中になってきているのかも…。 ・生活を豊かにするための共通の目的。
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感。犬の散歩、身近な人だとあいさつしやすい。 ・学校現場であった人、あいさつしてくれた人にあいさつを返そう！という取り組み。 ・「マナーを知らないのかもしれない」と思ってみると…。 ・学校では「あいさつをしなさい」「あいさつは大事」と先生が教えてくれる。大人になると「あいさつをしなさい」と教えてくれる人がいない。 ・あいさつ あまり期待しすぎないことも大事。 ・あいさつする人を増やす。 ・生活に影響する内容だと盛り上がる(マンションの管理費 etc)。 ・お祭りなど交流の場を作る。 ・かき混ぜるしくみ。 ・コロナでなくなっていたイベントの復活。
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・市民向けのあいさつ運動、横断幕。 ・専門の人に作ってもらうイベントは盛り上がる。行政主体も…(他市の場合)。 ・街歩きのなぞ解き。街を知る楽しいイベント。 ・街でイベントを行う(多世代での)ハロウィンパーティー…。 ・民生委員なども巻き込みながら活動。 ・ほかの町でやっていたら真似してみる。イベントなど。 ・”学校”を活かしたイベントをしてみる。 ・防災・災害に強いまちづくり。保護者+学校・行政など+地域。 ・助成金(子どもたちの活動をサポートする人たちに向けて)。

【人とのつながり・世代間交流】

<市民・地域が協力してできること>

- ・なかなか挨拶がうまくかわせないのは問題。
- ・同じマンションに住んでいるのに挨拶ができないところもある。本来挨拶は自然発生的なものであり、人間関係の基本。ここがうまくいかないから人とのつながりもできないのではないか。
- ・不用意に人を傷つけたり、いさかいを起こしたくない気持ちもあってか、コミュニケーションの取り方や距離の取り方が皆わからなくなってきている。
- ・あいさつが生まれにくい一因には共通の目的が見出しづらいのもあるのではないか。
便利に暮らしていると困りごとが見えづらくなったり自分たちで解決できるレベルになり、住民間で共通の目的ができにくい。
生活を豊かにするために困りごと自体をポジティブに言い合うことのもよいのではないか。
- ・中学生と小学生の発言で一番心に響いたのが挨拶しても返してくれないと思ったら怖くてできないという話。大人は子どもに見られている。
- ・挨拶等がうまくいってないときは返ってこなくても粘り強く、期待せずに繰り返すという意見もあった。あるとき突然挨拶や交流が生まれるということもある。人の意識がすごく大切である。

<必要なチームや仕組>

- ・場を作ることは行政の方もできるし自分たちでもできる。場をかき混ぜる人とか、かき混ぜる仕組がないと交流が生まれない。
- ・かき混ぜる仕組には地域のちょっとしたイベントが考えられる。そういうところから距離がだんだん短くなったり距離感の取り方がわかってくるのではないか。
- ・ハロウィンや昔ながらの地蔵盆など、大人も子どもも楽しめる形でかき混ぜる仕組があるとよい。

<必要な市からの応援や支援>

- ・挨拶運動的なものが、芦屋らしくスマートにできるよう市としての後押しがあるとよい。
- ・学校を拠点として、例えば中学校区を一つの単位として住民たちが子どもを応援するイベントを市に企画提案したら、助成金を3万円くれるとか。
- ・子どもたちを応援する仕組が中学校区の中でいくつも出てくるようになるとよい。そういうところに予算はなかなかつかないので、市が助成金を出してくれると後押しにもなる。

【Dグループ】

項目	点数	色	付箋の記載内容
子育て環境	5点満点中 3点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが預かる。 ・子ども食堂。 ・NPOなどをはじめとした子育てを終えたお年寄りなどが子育てを手伝ってくれる仕組み。海外。 ・大学生インターン。 ・学校では、先生や行政だけでなく、地域の方がちょっとしたサポートをしている。 ・行政と地域の役割分担ができるのでは。 例) マイノリティの方の支援は地域の方ができるのではないか。
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が得意なことで、こども向けに講演するなど、市民が活躍できる場、仕組み。 ・学校がもっとオープンになれば。親どうしのつながり弱い、モンスターペアレントと思われぬかなど。相談。不安。 ・こどもがいつでも相談出来る場所がほしい。(サポートルーム) ・子どもの能力を伸ばせるように！自由な学校。
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けの様々なテーマの教室。講師を市民の方、教室(場所)を行政が調整。 ・地域食堂など楽しいイベントはあるが、広報が弱い。 →行政に情報発信、周知をもっとしてほしい。 ・市民の方のボランティアに頼るのではなく、報酬など対価のある形、仕組み。 ・教師など人員不足はあるが、量だけ増やすのではなく質も必要。 ←行政が仕組みづくり。 ・常勤の担当者を手配してほしい。→先生の都合ではなく子どもの都合で相談したい。
治安	5点満点中 3.5点	青	※付箋への記載なし。
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の規制をしっかりと行えるような先進的なアイデア・取組。 ・地域での防災訓練をもっと大々的にできれば。 ・地域によってコミュニティに差がある。芦屋市全体のつながりがあれば。 ・消防団を通して防災訓練をできるのではないか。
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・詐欺・防犯対策の教室。→周知が足りていないのでは。 例) 教育委員会などが大学生の講師を手配してほしい。

グループ発表時の発言

【子育て環境】

- ・児童館などで働いている大人が子どもを預けられる施設があるといいという要望がある。
- ・子育てを終えられたお年寄りや高齢者の方たちで、子どもたちを見るようなことができれば良いのではないかと。
- ・大学生がインターン的に子どもたちを見るような、そういうことが私たちにできることではないかと。

- ・教員不足が解消されてほしい。
- ・（教員は）非常勤ばかりを増やすのではなく、常勤を増やしてほしい。

- ・小・中学校に最近サポートルームというものが整備されているが、週に1回のみ、あるいは午前中のみしか開いていないという実態。これでは子どもたちが使いたいときに使えない。
- ・（サポートの）数を増やすことのみにとらわれず、中身や子どもたちの要望に沿うことを重視しないといけない。
- ・サポートの部分で高齢者の方や地域の方が気軽に学校に参加できる、学校に入り込めるよう、学校側も地域に開かれた組織になっていくべき。
- ・地域の方と対話しやすい学校づくりが必要。

【治安】

- ・芦屋市は詐欺や防犯詐欺件数が多いという話を聞いた。
- ・防犯対策教室などは芦屋でも開催されているが、市民に届ききってないのではないかと。情報発信が課題ではないかと。

- ・地域でもっと避難訓練等の防災活動を行うべき。例えば、消防団を活用していけたら良い。
- ・消防団は芦屋の北と南と中央部で数にバラつきがあるという話を聞く。
- ・いろいろな地域で消防団などの地域での防災活動ができるとよい。

- ・来年度から自転車の罰則が厳しくなるので、今のうちから周知が必要。

【Eグループ】

項目	点数	色	付箋の記載内容
<p>①地域のつながり</p> <p>②参加しやすい仕組み</p> <p>※2項目選択されているが、付箋の意見はどちらにも共有される</p>	<p>100点満点中</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>とも</p> <p>50点</p>	青	<ul style="list-style-type: none"> ・”自他共楽” 日頃からのつながりがあるといい。包括的なシステム。 ・地域とつながれる明確なシステム。←日常的に!!自由に!!<多世代で楽しめること> ・若い人を無理に引き込まなくても、興味があった人を取り込めるようにする!! ・あしや市民の大運動会（地域とつながれるようなイベント）。 ・景観の良さを継続⇒あしや愛を深める。ゴミがない、防犯、オープンガーデン。 ・周りの人がしていたら自分もするようになる。イベント参加、ゴミ拾い。楽しそうにする。 ・井戸端会議のできる場。
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに広く周知できるしくみ。 E x .) 自治会広報は自治会員のみに限られてる…。 ・手に取りたくなるような広報の仕方。 ・「知っていれば参加していた」な人に向けた周知。(紙+SNSを使って)何か伝える方法。 ・コミュニティにもお金がかかる、という価値観を広める。有償化コミュニティ。 ・あしやを知るゲーム（市内を歩く…）。 ☆スタンプラリー、何か集める。←若い人に考えてもらうのはどう?☆多世代でできるもの。
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・広報あしや。年代別のページで若い人にも見てもらう。 ・コミュニティを知る場。最近芦屋に引っ越してきた人、市役所に行くのでそこで知れるといい。 ・ゲームのシステム開発。②(黄)のあしやを知るゲーム。

【地域のつながり 参加しやすいしくみ】

<市民・地域が協力してできること>

- ・「みんなで協力してできることは何かありますか」という芯となる部分は、「自他共楽の関係を築くには」という軸で考えた。
- ・地域とつながれるシステムが必要。
- ・若い人を無理に引き込まなくても興味があった人を取り込めるようにする。
- ・知っていれば参加していたという人たちへの周知方法を考えていけばいいのではないか。
- ・参加者が楽しそうにしていれば、(他の人へも)よいことは伝染していく。
- ・(以上で挙げた取組みで)芦屋のブランド力を高めていけばよいのではないか。

<必要なチームや仕組み>

- ・全戸配布の「広報あしや」をもっと手に取りたくなるように改良する。文字が多いのを見やすくするなどアップデートする。
- ・存在しているコミュニティ等の情報を知るために自治体の掲示板もあるがお金がかかる。ボランティアにも報酬が必要。お互いにいいことがあるようにするような仕組みがあるとよい。
- ・芦屋を知ってもらうために「ポケモンGO」のようなゲーム感覚のものやスタンプラリーのような形式で市内を歩いて何かを集めるというイベントはどうか。これも紙やSNSによる周知は必要。
- ・引っ越してきて間もない人には、(住所の変更等で市役所を訪ねるので)市役所で周知できるようなものがあるとよい。

<必要な後押しや応援>

- ・「広報あしや」で年代別のページを作るなど、若い人にも見てもらうような工夫をしてリニューアルを。
- ・最近引っ越してこられた方に向けてコミュニティを知る場を市役所に整備。そういうスペースがあるとよい。
- ・芦屋を知るゲームを作るにあたりシステム開発やキャラクター考案(御朱印のようなものでもよい)をしてくれる方(を起用)。

【Fグループ】

項目	点数	色	付箋の記載内容
ご近所づきあい	5点満点中 3点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションごとの声掛けができれば ・自治体ごとの違いをふまえた交流 ・親切さを大切に！市民活動活発化につなげる ・核家族、転勤族多い。地域の関係は？ ・転入者への声掛けをしている。日々の動き、自治会、街のルールなどもお知らせしている。その後のコミュニケーションがあるかどうかはわからないが、まずはお知らせする ・地域の人からの声掛け、うれしいのでは。特定の人からの声かけからでも広がる ・近所づきあいはフツーにしていらない。はじめの声かけから始まる ・困りごとの相談相手が市外の知人が多い。→市民同士の交流を深めていくべき ・雷による停電時にインターホンの確認を近所の人がしてくれた。断水後も気遣って管理会社に連絡してくれた。みんなで安心した。困ったことがあるとつながる
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会同士の交流の在り方を考える ・自治会など特定の団体（グループ）からの声かけをする仕組みづくり ・子ども食堂で独居の人にも声かけする ・マンション組合でも自治体に入っていないこともあるので共通の団体があると良い ・問題の共有をする場があると交流できる。→地域での課題を解決する ・老人会がない地区の高齢者を老人会がある地区で引き受けている
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に自治会ごとの活動をのせる。課題のシェアのため ・マンションの多い自治会をどうするか。マンションのオーナーの考えにもよる（お金のことも）。難しい問題をどう解決するか ・老人会について、他地区の人を受け入れているなら支援を
情報	5点満点中 1点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人はLINE、ネットで（町の）情報を流してくれる ・地域の自治体の情報をネット等でどんどん流す。不発でもいい。うまく流して多くの人へ ・子どもの企画したイベントで高齢者も出会う
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報提供をしてもらえるように。（独居、高齢者）
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの情報提供をもっとしてほしい。（防災関連、民生委員さんのこと）
現役世代の活力	5点満点中 2点	青	<ul style="list-style-type: none"> ・町内イベント。子どもは、子ども会に入らなくても誘う。子どもが（地域の人たちを）つないでくれる ・お母さん世代に活躍してもらおう。お母さん世代がお父さん世代を呼んでくれる ・いろんなイベントをすることで若者の興味をひく ・（多くの方は）全部はできないけど、ちょっと手伝いたい気持ちはあるのでは ・全員じゃなくてもいい。やりたい人、やる人がまずやる。（全員ということにとれわれず）この大きな考え方を変える ・みんなのためになることは難しい。どこかの人だけを対象としていてもそこから広がる。興味が違ってもしろんなことを知る ・若者、子どもがあってこそイベントが成り立つので、広報していきたい ・若い人たちが企画したことを年代上の人が手伝う ・地道に同じことを繰り返して続けていく！（15年やっている） ・子どものつながり→お母さんのつながり→地域のつながり ・リーダーとなる人がいる ・イベントを他地区含めオープンに開く。それをサポートする若い人たち
		黄	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会連合会が高齢化している。→現役世代がかかわりあえる仕組みがほしい ・活性化する自治会は子ども会が元気、老人会が元気 ・きっかけはこども（イベントなど） ・現役の人ができる時間などやり方を試す ・若い人がやっていくしくみが必要 ・子どもが企画するイベント（大人はお金を出す）昨季からやっている→10年後につながる
		桃	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに市長を呼んで集客する

【ご近所づき合い】

- ・茶屋之町のようにうまくいっているケースや、抱えている課題、取り組んでいることなどを自治会間でシェアできるとよい。市の方にインタビューをしてもらって「広報あしや」に載せるようなことができるとよい。
- ・みんなで動くのは難しい。個人が生活範囲・環境の中で一人一人できることを考える。それがつながって広がっていくといい。
- ・子どもがいるとお父さんお母さん、地域のいろんな世代の方が自然とつながっていく。お祭りや子ども中心の会などによって、接点がどんどん増えていくのでいいのではないか。
- ・音頭をとってしっかり回してくださる方がいてくださるというのはありがたいこと。茶屋之町の例では、約10年かけて今の上の世代の方が40代の方になった。
- ・(茶屋之町では) 子どもたちに予算をつけて自由にイベントを企画してもらい取り組みもある。とりあえずやってもらって遊びから広がっていくことをされている。子ども会や老人会がないところからも参加費を払えば参加できるオープンな取組になっていて、町の垣根を超えてじんわりとつながれる場があるのは大事だと思う。

【情報】

- ・茶屋之町では若い世代に代が交代したこともあり(町の情報を)LINEやインスタで発信できるようになった。
- ・情報を投稿した後の住民の反応について、若い世代はあまり気にせずどんどん発信する。発信することで広がる。市長のように、若い世代の情報発信力を取り入れてやっていくのはよい。

【現役世代の活力】

- ・現役世代は働いているので気持ちはあっても、地域の協力する場に出ていくということが難しい。(茶屋之町では) 仕事してないお母さんたちにそういう役割を担っていただく形になっている。任せ放しではなく、提案したら周りが協力してくれる関係もできている。
- ・今までは高齢の方が自治会なんかも頑張っていて、それを現役世代が手伝うという形だったが、現役世代、子どもの世代が頑張っていて、それを高齢の方たちが手伝うという形が、芦屋市モデルとして地域でも広がっていけばよい。

■参加者全員の一言発表

【Bグループ】

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと

- ・「思いやりをめぐらせる」
- ・「平和・芦屋愛。1日5人とおしゃべり、週に2回は気晴らし外出、友達10人!!と言い続けてふだんのくらしのしあわせを目指します。(感想/地域福祉計画ワークショップ楽しかったけど、時間が足りなかったです。もっと未来の芦屋について語りたかった)」
- ・「活性化」
- ・「自分の関わる地域のために自分の誇れること」
- ・「意識すること、気づくこと、行動すること」

【Cグループ】

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと

- ・「町内フリーマーケットを年に数回公民館で開く(重たい物を持ってないお年寄りのご家庭に取りに行ってあげる。どなたが何人でお住まいなのか、困っていることはないか、さりげなく聞ける。交換や売上出来なかった品物は粗大ゴミで出す)」
- ・「心のゆとりと笑顔」
- ・「生きがいを持って暮らせる街」
- ・「人との出会いを楽しむ！」
- ・「知ること(知ろうとする)、見える化」
- ・「教えて知って分かり合うこと。自分を出している人を尊敬する」
- ・「人と積極的に関わること。(自分から心をひらいて、あいさつをしたり、イベントに参加することを大切にしたいと思います)」

【Dグループ】

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと

- ・「助けてもらったら、それを別の人にも。(ペイフォワードより)」
- ・「誰でも(認知症や障害があっても)お互いに助け合える地域づくりを実現していきます」
- ・「積極的に自分が役に立てることを探していきたい。小さなことでも思いやりを持って」
- ・「次世代の品格ある芦屋人を育てるために、開かれた校庭/学校、運動場で見守り活動。Make Ashiya Great Again!」
- ・「価値観の枠を広げたい。(ここらへん(私の価値観の外)にいる人のことを理解したい。許したい。「なぜあの人はあんなことを言うのか」「あの人にも事情があるはず」)」
- ・「できる時に、できることを、できるだけ、少し無理してみる」
- ・「相手が誰でも明るく楽しい芦屋の雰囲気分かるあいさつをしたい！」

【Eグループ】

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと

- ・「つながれる場所をみつけたら、まず参加してみる」
- ・「アンテナ広げて楽しくやってみる」
- ・「自分の命は自分で守る。（防災の基本です）」
- ・「誇れる街にする。気持ちも街も美しさを追う」

【Fグループ】

年齢や立場に関わらず、誰もが支え合いながら暮らせるまちを目指して私が大切にしたいこと

- ・「子ども達との接点を増やしたい(お母さん方と気軽に声を掛け合える街としての環境作り)。20年後、30年後の芦屋を作るのは幼稚園、小学校低学年の子ども達(芦屋の魅力をハダで感じてもらえる体験作り)」
- ・「思っていることや、それぞれの価値観を認め合えるように大切にしていきたいと思いました(できるように)」
- ・「親切にすることを忘れない(忘れるから！たくさんしてもらっている、感謝)。遊び心。社会的弱者やご家族への配慮」
- ・「つながりを大切にするために、小さな声かけやあいさつを大切にする」
- ・「誰もが!!ではなく自分が自分らしく暮らせるまちにするために、誰かを支えられる自分でいたい。そして同じ考えの仲間を少しずつ増やしていきたい」

第5次地域福祉計画の策定に向けた市民会議
「地域福祉 Project あしやオープンテーブル」
報告書

令和8年（2026年）2月
発行 芦屋市
〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7番6号
TEL 0797-38-2153 / FAX 0797-38-2160
URL <https://www.city.ashiya.lg.jp>
編集 芦屋市こども福祉部福祉室地域福祉課